Knights of miracle

チョコレートミント

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Ｋｎｉｇｈｔｓ　ｏｆ　ｍｉｒａｃｌｅ

【Ｎコード】

Ｎ１９４９Ｈ

【作者名】

チョコレートミント

【あらすじ】

ミニバスケットにデビュー１年目にして市内最強になったチームの翔山竜蒔のミニバス（ミニバス）から中学バスケまでの話の第１作です。

1：プロローグ（前書き）

これはノンフィクションを少しだけ変えていますが．人物名や団体名・地名などは変えています．

1：プロローグ

これは主人公の「翔山（ひやま）　竜蒔（りゅうじ）」のミニバスケットからの物語です。

［登場人物紹介］

翔山　竜蒔・・主人公でポジションはＦ。イケメンでスポーツ万能。

南坂　紀明・・翔山と同じチームメイトでＦ。翔山と同じく身体能力が高い。

坂井田　清貴・・翔山のチームメイトでＳＧ。翔山と同じ学校でイケメン。翔山と対照的に性格も良い。

海寺　勇樹・・翔山のチームメイトでＰＧ。みんなから「女っ垂らし」と非難されている。

淡崎　憂・・翔山のチームメイトでＣ。身長が高く１０分の１の確率でダンクができる。

黒川　宏季・・翔山のチームメイトでＧだがシックスマン。

鶴岡　裕也・・翔山のミニバスのライバル。

Ｂｌａｃｋ　ｓｏｌｄｉｅｒｓ《ブラック・ソルジャーズ》・・翔山達のチーム。翔山達の世代に公式戦に出始めて．いきなり県３位になったが次の年は人数不足で公式戦に出れなくなったという幻のチーム。

ミラクルの世代・・翔山達の世代のこと。特にソルジャーズの６人のことをＫｎｉｇｈｔｓ（ナイツ）と呼ぶ。

杉岡　雪子・・翔山と海寺の幼馴染み。西田小学校の女バスキャプテン。学校では男子から人気。Ｇ．

佐々山　由貴・・西田小の女バス工一ス。翔山と同じＦ。学校では雪子と共にモテモテ．

岩木　李香・・西田小学校女バスのもう一人の工一ス。ＳＧ。顔はかわいくて性格も良い。

竹本　達雄・・託田山小学校キャプテンの市内ＮＯ．１Ｇと呼ばれている。翔山とは試合会場で友達になりライバルでもある．

一一一一一一一一一一・――――――――――・――――――――
――・―――――――――・―――――一一

これはそんな騎士の話である。

２：夜の体育館

２０ＸＸ年
市内総合運動体育館
中体育館Ａコート
深夜０時
「ダン。ダン。キュ。」
真夜中の体育館にバスケをする音が響き渡っている。
「またあいつらか。」
見回りのおじさんが体育館に近づいてくる。
ガチャ。
「おい。翔山。」
おじさんが呼ぶ。
「あっ！。おじさん。今日も来てくれたんだな。」
「ああ。」
「じゃあ、いつものように１ｏｎ１をやろうよ。」
「じゃあちょっと待っておけ。着替えてくるから。」
そういうとおじさんは体育館から出て行ってしまった。
ーーーーーーーーーー・――――――――――・――――――――
――・――――――――

「よしやろうか。」
おじさんがもどって来た。
「じゃあ。今日は俺ボールからな。」
「いいぞ。」
それからは無言のまま１ｏｎ１を始めた。
ーーーーーーーーーー・――――――――――・――――――――

――・――――――――

「お前うまくなったな。翔山。」

「まあな。この前負けたときの反省を素直にして相当練習したからな。」

「ハハハハハ。いいぞこの調子でもっとうまいやつよりうまくなれよ。」

「おう！」

「じゃあ。今日はもう切り上げろ。もう2時半だからな。もうそろそろ帰らないと親にばれるんじゃないのか？」

翔山は時計に目をやる。

「ああ！やべー。もう帰らないと！」

「じゃあな。翔山。」

「ああ。じゃあな。」

3：集結

翔山がバスケをはじめたのは小学3年生のときからだ。（もともと器械体操をしていたので運動神経は良かった。）バスケをはじめたきっかけは友達からさそわれて遊びのつもりでやりはじめた。
南坂は小学1年生からバスケをはじめていた。
坂井田は翔山と同じきっかけでバスケをはじめた。
海寺はバスケは女にもてるスポーツとききバスケを4年からはじめた。
淡崎は6年からはじめてソルジャーズのスタメンにのぼりつめた天才といわれていた。
黒川は4年からはじめた.
この天才の6人が集まった最強ソルジャーズの最初の試合は岡里小学校との練習試合だった。
初めての試合だというのに緊張など全くなく114VS21と圧勝したのである。もしかしたらこのときから奇跡の神はヒイキをすきになったのかもしれない。
だが奇跡の神はそう長くヒイキはしないのである。いずれ奇跡の神がソルジャーズを見捨てることになる。だがそれはまだ先の話である。

４：練習試合

「夏期大会の最初の相手は泉南小か。南坂。」
「ああそうだな。でも，まずは今日の練習試合の桂木小をたおさないとな。」
「うん。」

ーーーーーーーーーーーー・ーーーーーーーーーーーーーーー・ーー
ーーーーーーーーーーー・ーーーーーーーーーー

「ピーーーッ。今から白（桂木小）と青（ソルジャーズ）の試合をはじめます。ピッ」
「お願いします。」

ーーーーーーーーーーーー・ーーーーーーーーーーーーーーー・ーー
ーーーーーーーーーーー・ーーーーーーーーーー

ソルジャーズは桂木小とは張り合うと思っていたが，そうはいかなかった。
「ナイスシュート。南坂。」
「ナイスアシストー。海寺。」
「ナイスタップ。淡崎」
「ナイスカット。坂井田」
「ナイスシュート。黒川」
翔山は口をずっと動かし続けていた。そして，３Ｑ終了間際にみんなが，
「おおっ。ナイス。翔山のロングレイアップ。」
※ロングレイアップとは３Ｐラインからふみきって，レイアップをするという，翔山の身体能力を活かした技である。
「９６ＶＳ１１。か。楽勝だったな。淡崎。」

「ああ。この調子で夏期大会も優勝できたらいいな～。」
「そんなに上手くはいかないよ。」

そして刻一刻と夏期大会が近づいていっているのである。さらに市内にソルジャーズという名のチームが噂になる日が近づいてきているのである。

5：夏期大会

～市内夏期大会1回戦～
「さあ。がんばろう。みんな。」
ソルジャーズの監督山田コーチの一言。

ーーーーーーー・ーーーーーーーーー・ーーーーーーーーー・ーーーーーー・ーーーーー

「ピーッ。試合終了。礼。」
「ありがとうございました。」
「余裕だったな。南坂。」
「うん。だって、９６ＶＳ２２だったもんな。」
「次の２回戦はどことだ？黒川。」
「え～っと。秋山。秋山は尾上に６２点差つけてるよ。」
「なに～。強よそうじゃん。」
「大丈夫だよ。心配するなよ翔山。」
「そうか～。」
その通り強くはなかった。
「次も圧勝か。８１ＶＳＯ２だもんな。」

ーーーーーーー・ーーーーーーーーー・ーーーーーーーーー・ーーーーーー・ーーーーー

この後もソルジャーズは「勝ち」を積み上げて次の試合は来週の決勝リーグとなった。

※決勝リーグはスラ○ダンクとは違って決勝リーグに残った４チームのトーナメント形式。

「お～い。ひやま～。」
南坂が呼んでいた。
「なんだよ～。」
「あっ・いたいた。」
「何か用か？」
「当り前だよ。だから探してたんじゃん。」
「いいから用って何だよ。」
「聞いておどろくなよ。なんと・・」
「お～い。翔山く～ん。南坂く～ん。」
声の主は佐々岡由貴だった。
「翔山君・南坂君．決勝リーグ進出おめでとう。私達も女子の部・決勝リーグ行けるから、また会場で会おうね。」
「うん。じゃーね一」
「チッ。邪魔が入ったな。南坂。で、何だよ。」
「ああそういえば、決勝リーグに出場する４チームがどこかわかるか？」
「え～っと。俺達のソルジャーズだろ、鶴岡のいる子麻台だろ。あとは竹本君がいる託田山小と昨年の市内王者の龍桜川西小じゃないのかな」
「と、俺も思っていたら違ったんだよ。」
「えっ！？」
「それが、ソルジャーズと子麻台まではあっていたんだよ。あとは、今年からツインタワーをはじめた山幸南と去年黒人選手が運良く転校してきた金田小の４つだったんだよ。」
「マジかよ。ツインタワーも黒人もどっちも強そうじゃん。」
「それより。さっきの佐々山ちゃんが邪魔だっていったのは許さん！！」
「何でだよ。邪魔だったから邪魔っていっただけだろ。」
「いや、佐々山ちゃんは可愛いいから。」
「何だよそれ！」

6：決勝リーグ

市内夏期大会決勝リーグ当日
第1試合は子麻台VS金田だった。子麻台は決勝リーグだというのにもかかわらず、金田を61VS24とあっさり見下した。
第2試合は女子の西田｛翔山と海寺・坂井田の母校。｝VS峰岡だった。
「がんばれ～。～。」
と、女っ垂らしの海寺がを応援。
「お前は西田じゃなくて、杉岡と佐々山の応援だろ！！」
と、みんなからつっこまれる。
「ちがうって～。」
「お前、前からいうとるけど女のこと考えてバスケしとったらあかんいうとるやろ一。！！」
翔山の激しいツッコミ。

ーーーーーーーーーーーー・ーーーーーーーーーーーーー・ーーーーーーー

そして、第2試合もおわり、つぎはソルジャーズVS山幸南の第3試合となった。
「さあ、頑張ろう。これに勝てば決勝戦だぞ。しっかりしろよ。」
翔山が珍しく試合前にみんなに喝を入れる。
「おう。わかってるよ。」
元気よく南坂が返す。
「わかっていて当たり前だろ。」
「じゃあなんで聞いたんだよ。」
「なんとなく・・。」
「おまえら、いいから早くアップをしろ。」

喝を入れたはずの翔山が逆に喝を入れられていた。
「ハハハハハ。」
この光景にはチーム全員大爆笑。
と、そのとき
「ビ一ッ。1分前です！。」
「集合。」
「集合。」
両チーム自分のベンチに戻り、スタメンがコートに出てくる。
ソルジャーズ
6：松田（5年）
7：坂井田
9：海寺
10：黒川
11：淡崎
これがスタメン。

※ミニバスは2Qまでに10人出さないといけないので翔山・南坂は第2Qからでる。

いよいよティップオフ！

7：第1Q

「ピー。それでは今から青VS黄《山幸南》の試合を始めます。礼！」

「お願いします！」

両チームのスタメンはこうだ。

ソルジャーズ
6：松田
7：坂井田
9：海寺
10：黒川
11：淡崎

山幸南
4：田辺
7：山岡
10：瀬ノ上
13：覇玉
15：二ノ宮

この10人が第1Qを戦うのだ。

ジャンプボールに勝ったのは、ソルジャーズだった。

ソルジャーズは、パスをよく回して、山幸南の選手たちをかき乱した後に淡崎がシュートを決める。

そして、ディフェンス。

ソルジャーズのディフェンスボックス1。黒川が4番につき、後は3―1のゾーンであたってきた。このディフェンスは成功し、ソルジャーズボールになった。

「シュッ」
坂井田が３Ｐラインの後方からシュート。
「ガン」
だが、惜しくもリングにはじかれる。
「バシッ！」
リバウンドをとったのは黒川だった。黒川は、完璧な、スクリーンアウトでリバウンドを取ったのだ。
そしてシュート。
「バシッ」
相手の１０番がブロックをした。
「くっそー。もうイッチョー。」
黒川がもう１度跳ぶ。
それに続いて山幸南の１０番も跳ぶ。
そして、ブロックが出来そうなところで、
「かかったな。」
そういうと黒川はダブルクラッチ。
「スパッ」
きれいな音をたてシュートが決まる。
そしてその後もソルジャーズが押す試合展開になっていった。
残り時間が０：１２秒。
「バシッ」
淡崎がカットをし、ワンマン速攻で、
「どきゃ！」
なんとダンク。
観客はみんな立ち上がり大歓声が起こる。
そして、山幸南の４番がミドルシュートを決めたところで１Ｑ終了。
１Ｑは、
ソルジャーズ：２１
ＶＳ
山幸南：９

で、ソルジャーズの大量リードで終わった。

８：第２Ｑ（前半）

第２Ｑのメンバーは、

ソルジャーズ
４：翔山
５：南坂
８：杉岡（杉岡雪子の弟）
１２：亀波津（双子の弟）
１３：亀波津（双子の兄）

山幸南
５：湯内
６：冨茶田
８：谷田
９：藤
１２：夷

「出たな、ツインタワーやろうが。」
ツインタワーは名の通りかなりでかかった。（５と８）
そして、第２Ｑ開始。
山幸南ボールからスタート。６番がボールを運んでいる。
ツインタワーはいきなり、ローポストに陣取った。
「うっ。」
翔山は声を上げてしまうほど、パワーが強かった。
「バスッ」
簡単にツインタワーがシュートを決める。
「杉岡。ボール！。」
これが悔しかったのか翔山がいきなり、気合ＭＡＸに。

そして、
「ダン　ダンダン」
1ドリブルで山幸南の5番を抜き、ヘルプに来た9番をクロスオーバーで抜く。
この状態で5VS3で楽々にシュートを決めれるのにもかかわらず翔山は、一人で抜く。
「キュッ　ダン」
次は、6番を1フェイク入れて抜き、12番はスピードで抜く。
（こんなの余裕だよ。）
翔山はそう思いつつ8番のいるゴール下に突入。
「みんなは抜かれても俺が叩きオトース！」
8番が挑発。すると、
「おまえが、俺に大口たたくのは100億光年以上早いんだよ！」
そしてレイアップからダブルクラッチ。
「ハハハッ。読めてんだよ！」
山幸南の8番は読んでいた。だが、
「バーカ。」
そういうと、シュートを決める。
「な、何でだよ。」
8番は驚きを隠せなかった。
翔山は、ダブルクラッチバックシュートを決めたのだ。
翔山は、先の先を読んでいたのだ。
「くっ。まだまだー。これからだ。」
山幸南のPGの冨茶田が言う。
山幸南の5番が3連続でミドルシュートを決めた。
山幸南は第2Qで12点差あったものを7点差に縮じめていた。
「やばいぞ！」
思わず、ベンチから黒川が叫ぶ。
「分かっているよ。これからだ。」
「ビー。タイムアウト。青（ソルジャーズ）。」

たまらずタイムアウト。
残り時間は２分２８秒。試合の半分が終わった。
ソルジャーズ：２９
ＶＳ
山幸南：２２

9：第2Q（後半）

タイムアウト中ベンチは、さわがしかった。だが、翔山は聞いておらず、南坂をにらんでいた。それに南坂がきずき目をそらす。
「ビーッ」
タイムアウトが終わった。
「おい。翔山、さっきは何だよ。」
「お前がふざけてるからだよ。」
「何？俺がふざけてるだと？」
「ああ。もう少しまじめにやれ。」
「はいはい。」
「チェッ」
「舌打ちするな！」
「やめろ二人とも。喧嘩はするな！翔山、南坂のやる気を出そうとしてるのは分かるけどやり方があるだろ！南坂ももう少し頑張れよ。」
亀波津兄弟が見事にはもり注意をする。
「分かったよ。」
「分かったならよろしい。」
亀波津兄が大きな態度をする。
「よし。行くぞ。」
ソルジャーズボールからスタート。
「はい。」
南坂がボールを要求。
そして、ＭＡＸスピードからバックステップをし、ミドルシュートを決める。
山幸南は８番が翔山に決められた事をまだ引きずっていて使い物にならなくなってきた。
「ガスッ」

８番がミドルを打つが入らない。
「くそっ。」
「ガンッ」
ソルジャーズも杉岡がミドルを打つが、入らない。
山幸南は、ミドルを打たず、中で勝負をしてきた。
５番がハイポストにあがり、シュート体制に入る。
が、それはフェイク。
翔山はフェイクに掛かりぬかれる。
そしてシュート。
「ふざけてんじゃねーよ。馬鹿翔山が！」
そういい、もの凄いジャンプでブロックをする。
「よし。走れ馬鹿ども！」
南坂が大きい態度で指図する。
もう翔山が走っている。南坂はパスをすると全速力で走り出す。
５番が戻っている。
翔山と南坂がいる。
２ＶＳ１だ。
翔山がレイアップからのビハインドバックパス。
「ばす。」
南坂がシュートを決め、ソルジャーズのペースになってきた。
それから、ソルジャーズは点差を離していった。
「ピーッ。」
第２Ｑ終了。
ソルジャーズ：３６
　　ＶＳ
山幸南：２４

１０：第３Ｑ

いよいよ第３Ｑにはいる。
第３Ｑのメンバーがコートに出てくる。

ソルジャーズ
４：翔山
５：南坂
７：坂井田
９：海寺
１１：淡崎

山幸南
４：田辺
５：湯内
７：山岡
８：谷田
９：藤

両チームともベストメンバーであたってきた。
第３Ｑは、山幸南ボールからだった。
第３Ｑは、ツインタワーが立て直してきた。
ツインタワーがスクリーンプレイを使いシュートを決める。
負けじと淡崎はポストプレイをする。
「ダ・ン・ク・ダ・ン・ク」
観客はダンクコールを始める。
だが、淡崎は落ち着いてレイアップ。
バシッ
山幸南のボールをスティール。

坂井田が左４５。からミドルを決める。
バシッ
またスティール。
次は海寺がゴールした。
「な、何でだ～？」
思わず山幸南の４番が言う。
ソルジャーズはゾーンプレスディフェンスを仕掛けていた。
山幸南はこのディフェンスの対処法を練習しておらず、差が離れだす。
ゾーンプレスを始めてから４分間翔山と淡崎はディフェンスをしなくても良い様な状態になっていた。
その時
ダンダン
４番が頑張って一人でプレスを破ってきたのだ。
シュッ
ミドルシュートを打たれる。
ガン！
残念なことにリングにはじかれる。
その後はさらにゾーンプレスを強化した。
「ビーッ、３Ｑ終了。」
あっさりと第３Ｑは終わってしまった。
点数は、
ソルジャーズ：５０
　　ＶＳ
山幸南：２８
かなりの差が開いてしまった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1949h/

Knights of miracle

2010年11月17日14時54分発行